

安全データシート

改訂日:2020年5月20日

1. 製品及び会社情報

製品名
会社名
住所
電話番号

硫酸インジウム(Ⅲ)n水和物
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
IB1777

整理番号

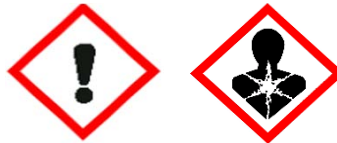
2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷・刺激性:区分2A
発がん性:区分1B
特定標的臓器・全身毒性:区分1(肺、骨格、消化管)
(反復ばく露)

絵表示又はシンボル



危険喚起語

危険有害性情報

危険

強い眼刺激

発がんのおそれ

長期又は反復暴露による臓器の障害(肺,骨格,消化管)

注意書き

【安全対策】

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

粉じん、ヒュームを吸入しないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

保護眼鏡/保護面を着用すること。

必要に応じて個人用保護具を使用すること。

【応急措置】

眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。

暴露または暴露の懸念のある場合:医師の診断/手当てを受けること。

気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

化学名

成分及び含有量

化学式又は構造式

官報公示整理番号(化審法、安衛法)

化学物質を特定できる一般的な番号

危険有害成分

化学物質

硫酸インジウム(Ⅲ)n水和物

硫酸インジウム(Ⅲ)n水和物 (無水換算)75%以上

 $\text{In}(\text{SO}_4)_3 \cdot n\text{H}_2\text{O}$

(1)-751

CAS RN: 13464-82-9

硫酸インジウム(Ⅲ)

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

汚れた衣類や靴等を脱ぎ、製品をできるだけ払い落とし、多量の水で洗い流す。

目に入った場合

速やかに清浄な水で最低15分間の洗浄を行い、医師の手当を受ける。

飲み込んだ場合	水でよく口の中を洗浄する。水または牛乳を飲ませる。被災者に意識のない場合は口から何も与えてはならない。無理に吐かせてはならない。直ちに医師の処置を受ける。
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	水、粉末消火剤、泡末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂
使ってはならない消火剤	該当情報なし。
特有の危険有害性	燃焼の際、刺激性もしくは有害なガスを発生する。
特有の消火方法	火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。
	火災時に有害ガスを発生する。消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器を含め完全な防護服（耐熱性）を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
	関係者以外の立入りを禁止する。
環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
回収、中和	飛散したものを掃き集めて密閉できる乾燥したプラスチック容器に回収する。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	適切な保護具を着用する。
	容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
	漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。
局所排気・全体換気	局所排気装置を設置する。
安全取扱い注意事項	
接触回避	粉塵又はミストの皮膚接触あるいは吸入を避ける。
保管	
技術的対策	密閉して空気との接触を避ける。
適切な保管条件	直射日光を避け、換気のよいなるべく涼しい場所に密閉し、施錠して保管する。
混触危険物質	該当情報なし。
容器包装材料	ガラス
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度等	
管理濃度	未設定
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	TWA 0.1mg/m ³ （Inとして）
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
	粉塵が発生する場合は、発生源を密閉し、局所排気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	防塵マスクを着用すること。
手の保護具	ゴム手袋を着用すること。
目の保護具	ゴーグルを着用すること。
皮膚及び身体の保護具	長袖の作業着を着用すること。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。
9. 物理的及び化学的性質	
物理的状態、形状、色など	白又は灰色の結晶又は粉末
臭い	該当情報なし。
pH	該当情報なし。
融点・凝固点	250℃
沸点、初留点及び沸騰範囲	該当情報なし。

引火点	該当情報なし。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	該当情報なし。
蒸気圧	該当情報なし。
相対ガス密度	該当情報なし。
密度及び/又は相対密度	3.44g/cm ³
溶解度	117g/100g (20℃ 水)
オクタノール／水分配係数	該当情報なし。
自然発火温度	該当情報なし。
分解温度	該当情報なし。
蒸発速度	該当情報なし。
燃焼性	該当情報なし。
10. 安定性及び反応性	
安定性	通常取り扱いにて安定である。 吸湿性がある。
危険有害反応可能性	該当情報なし。
避けるべき条件	直射日光、熱
混触危険物質	該当情報なし。
危険有害な分解生成物	該当情報なし。
11. 有害性情報	
急性毒性	経口ラット LDLo 1200mg/kg
皮膚腐食性・刺激性	該当情報なし。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	「可溶性の塩は刺激強い」の記載があるので区分2Aとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	該当情報なし。
生殖細胞変異原性	該当情報なし。
発がん性	「ヒトに対しておそらく発がん性がある。」の記載があるので区分1Bとした。
生殖毒性	該当情報なし。
特定標的臓器・全身毒性-単回暴露	該当情報なし。
特定標的臓器・全身毒性-反復暴露	「インジウム及びその化合物は骨格、消化管系への影響及び特に肺への吸入による有害性によりTLV-TWAが設定されていること」、 「ヒトで2例のインジウムすず酸化物による肺線維症の症例報告があること」及び「インジウムすず酸化物は高いインジウム含量（インジウム 74%、すず 8%）を有するのでその観察された肺毒性の主な原因はおそらくインジウムによる」の記載があるので区分1（肺、骨格、消化管）とした。
	【特記】 インジウムは、ACGIH及び安衛法でもインジウム及びその化合物として採録されているので、硫酸インジウムをインジウム類縁体として評価、分類した。
誤えん有害性	該当情報なし。
12. 環境影響情報	
生態毒性	短期(急性): 該当情報なし。 長期(慢性): 該当情報なし。
残留性・分解性	該当情報なし。
生態蓄積性	該当情報なし。
土壌中の移動性	該当情報なし。
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意	
化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイ	産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意	
国連番号	—
品名(国連輸送名)	—
国連分類	—
容器等級	—

運搬に際しては容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実にを行う。

国内規制がある場合の規制情報

陸上輸送

海上輸送

航空輸送

応急措置指針番号

消防法の規定に従う。

船舶安全法の規定に従う。

航空法の規定に従う。

—

15. 適用法令

化学物質管理促進法(PRTR法)

毒物及び劇物取締法

労働安全衛生法

第1種指定化学物質〔インジウム及びその化合物〕

毒物及び劇物に該当しない。

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物（第57条及び施行令18条、第57条の2及び施行令18条の2）〔インジウム化合物〕

特定化学物質障害予防規則（管理第2類物質）〔インジウム化合物〕

消防法

危険物に該当しない。

16. その他の情報

引用文献

16615の化学商品（化学工業日報社）

製品評価技術基盤機構HP

職場のあんぜんサイト(厚生労働省HP)

詳細リスク評価書No. 42インジウム及びその化合物(厚生労働省)

インジウム・スズ酸化物等の取扱い作業による健康障害防止に関する技術指針(厚生労働省)

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。